

年長組・第一保育期

— 満五歳、満六歳 —

生活訓練

第一週

今までの年長組が小學校へ進んで、今度から幼稚園の上級生（一）になつたさいふ所感は、幼児ながらに相當複雑なものであらう。その感じの中でも、得意、誇りを主とするは勿論であるが、さここなき自重感といつた風のものも、起らざるを得まい。そこを、巧みに訓練化してゆくことである。それは、つまり、自分のこゝは自分でするさいふ方へミ、他のために盡すさいふ方へミ、殊に、園の全體へミいふ方ミ、この三つの方へ、責任的心持ちを一步進めることに他ならぬ。但し、それは方向を示すもので、すぐ、さういふ實現へ急ぐのではない。

「年少組に對する心持」さいふこゝは、年長組になつてか

ら始めて問題になつて来る。それに就て、小さいものをいぢめるなさいつた風のこゝも、或る種の幼稚園では必要かも知れないが、一般としては、そんな必要もないであらう。さいつて、小さい人を助けよも、少々買ひ上げた言ひ方である。何もそう大げさなひ方をしないで、生活の實際の裡で、小さいものを迎へてやつたり、先きに立てゝやつたり、さういつた風の仕向け方でいゝであらう。つまり、その内容は大したこゝでなく、心持ちとして、年少者への正しい方向をつけてやりたいのである。

年少組の、しかもその第二週から注意したこゝが、またこゝで再注意されてゐるのは、年齢が愈々元氣になつて来るこゝで、年長組になつた勢ミに對する警戒である。

第二週

食事に關しての訓練は年少組の第三週から始まつてゐる。こゝでは、それ以上、食事前後に先生のお手傳ひをさせるのである。これは、任務さいふよりも、面白がつてくることであるが、それを仕向けずに置く、不精ものになり、自分ひきり主義者になり、折角の奉仕訓練の機會を失するであらう。たゞ、幼児の中には、殊に女の子の中には、おせつかいの、おしやまさんがゐる、何んでも手柄顔に、自分ひきりでお手傳ひに手を出したがつたりする。そういうふのに消極的訓練も亦、注意を要する場合がある。

歸りの時の整容は、實際は、先生がよく世話をしてやることになるが、それでも、服装の亂れたまゝ、手や顔のよごれたまゝでは心もちの悪いさいふ習慣は、幼児の方のものである。このために、相當時間をこるこみになるかも知れない。それでも決して惜しくはない。ゆつくり落ちついてするがよい。さいふのは、單に整容の結果ばかりでなく、心もちの落ちつかせに最も有効だからである。幼稚園の生活は幼児の元氣を中心とするが、その中に、靜かな落ちつ

きも無ければならない。一體に我國の幼稚園の男の子には、それが足りないと思はれるが、注意のいることである。しかしまた、落ちつきさいふつて、落ちつきのための落ちつきの稽古をさせるのも考へものである。幼児に靜座法でもあるまい。それよりは、斯うしたお歸り前の整容で、靜かに服にブラツシをかけ、髪を櫛けづり、手や顔を洗ひ、さいふつた時間をもたせることは、至極く自然の落ちつき訓練なるのである。しかるに、今日の幼稚園一般にして、これが甚だ缺けてはるまいか。

第三週

こゝで擧げてあるこども、つまりは、年長組になつた元氣の始末であるが、訓練としては、庭なり道路なりで、蹈んでいゝところを蹈んで悪いところとの區別を立てさせることである。昔は疊のへりを蹈むこみを甚しい不作法とした。今は、横斷道路外で街路を横切るのは交通作法に反する。之れ皆、野性生活でない行動の訓練である。折角、青き生へる芝生の上なきを平氣で踏まないようにさいふのも、その一訓練としてあるが、又一方には、幼稚園とし

て、芝の保存にいふ極く實際の問題もはいつてゐる。

第四週

前週では砂場の後かたづけ、今週では室内の整頓に、共に、ちらかしをきらふ習慣に向つてゐるのである。勿論、之れを餘りやかましくして、きれいな好きの御隠居さんのやうにして仕舞つてもなるまいが、年長組にもなれば、相當のまごころまで此の訓練をしてよからうし、必要でもあらう。それは、亂雑は外物でなくて、性格に及ぼすからである。心もちの片づいてゐるものは、身邊もおのづから整ふ。その反對に、心もちの散らばつてゐるものは、身邊もだらしない。その逆が訓練効果として考へられるのである。まごころで、整頓にいややうの訓練になるに、先生が先づ、その訓練をされてゐるまごころが先決問題である。出しつばな

誘導保育案

第一週

おもちゃ作り

し、置きつばなし、こちやく、くしやくで平氣でゐられる先生は、豪傑であるのかも知れないし、そこに、一種の面白い教育効果もあり得るかも知れないが、整頓の習慣の訓練者としては不向きである。但し、砂場は勿論保育室は飾り場でもなし、お座敷でもない。仕事場であり、細工場であるまごころが多い。そうく片づけてばかりゐたら何も出来ないまごころでもあらう。まごころで、畫家のアテリー、大工さんの仕事場、大に動いて居り、相當物が出てあつて、まごころなく整つてゐる。一寸した物の置き方に、不秩序に秩序まごころがあり、亂雑に不亂雑まごころがある。そこそ、先生の心のこまかいはたらきから、自然に分れて来る區別である。そして又、幼児達に及ぼして来る自然の影響感化でもある。

年長組になつたまごころふ事は、子供達にまごころつてみんなに嬉しい事であり、自重させる事であらうか。私共大人には想